

普及項目	増殖
漁業種類等	刺網、カゴ
対象魚類	モクズガニ
対象海域	菊池川

菊池川におけるモクズガニの天然採苗及び人工種苗生産の取組

県北広域本部水産課・宗 達郎

【背景・目的】

菊池川漁協では、重要種であるモクズガニの増殖のため、県外産の人工種苗や天然稚ガニの放流を行ってきた。しかし、近年、放流用のモクズガニ種苗の入手が困難となってきたことから、菊池川漁協からは県内での種苗確保の要望があがっている。

そこで、放流用種苗の確保に必要な基礎的知見を得ることを目的として、天然稚ガニの採苗試験及び種苗生産用親ガニの採捕試験を行った。

【普及の内容・特徴】

(1) 天然稚ガニの採苗試験

天然採苗試験は、令和2年(2020年)12月23日から令和3年(2021年)6月10日まで、菊池川白石堰下流の早瀬の上下2か所(図1)に、キンラン、ノリ網、キンラン+塩ビ管をプラスチック製カゴに入れた3種類の採苗装置を設置して実施した。

天然稚ガニは、令和3年(2021年)3月18日に初めて採捕された。期間中、採捕数が最も多かったのは5月14日のキンラン+塩ビ管の最大43個体/カゴであった。全体の採捕数は、早瀬の下流側よりも上流側で多く、採苗装置はキンラン+塩ビ管を入れたカゴが多かった。

また、甲幅長は、10~20mmが約40%、次いで5~10mmが約35%であった。

(2) 種苗生産用親ガニの採捕試験

種苗生産用の親ガニ(抱卵雌ガニ)の採捕試験は、令和3年(2022年)9月8日から11月19日までの月2回、菊池川河口域でカニ籠を用いて実施した。

9月は抱卵雌ガニが採捕されず、10月は2個体の抱卵雌ガニが採捕されたが、既に半分以上の卵を放出していた。11月は2日に9尾、19日に8尾の赤茶色及び黒色の卵を抱卵した雌ガニが採捕された。

なお、11月に採捕した抱卵雌ガニは、一般社団法人くまもと里海づくり協会に搬送し、同協会がふ化試験を実施。搬送した17尾のうち、9尾の卵がふ化し、合計約373万尾のゾエア幼生を得ることができた。

【成果・活用】

各試験の結果は、菊池川漁協役員会で報告し、今後の取組みに向けた検討材料となった。次年度も、効率的に放流用種苗を確保する手法を確立していくため、天然稚ガニの採苗試験及び種苗生産用親ガニの採捕試験を継続して実施する。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた(51~75%)

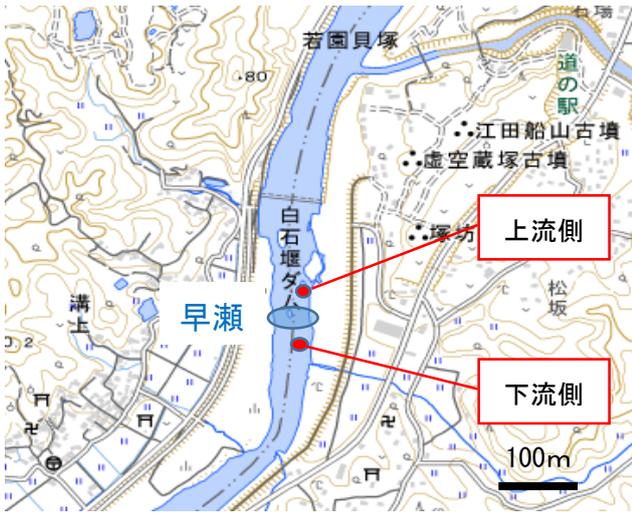


図1 稚ガニ採苗装置設置場所



図4 採捕されたモクズガニ



図2 稚ガニ採苗装置設置状況



図3 稚ガニ採苗装置

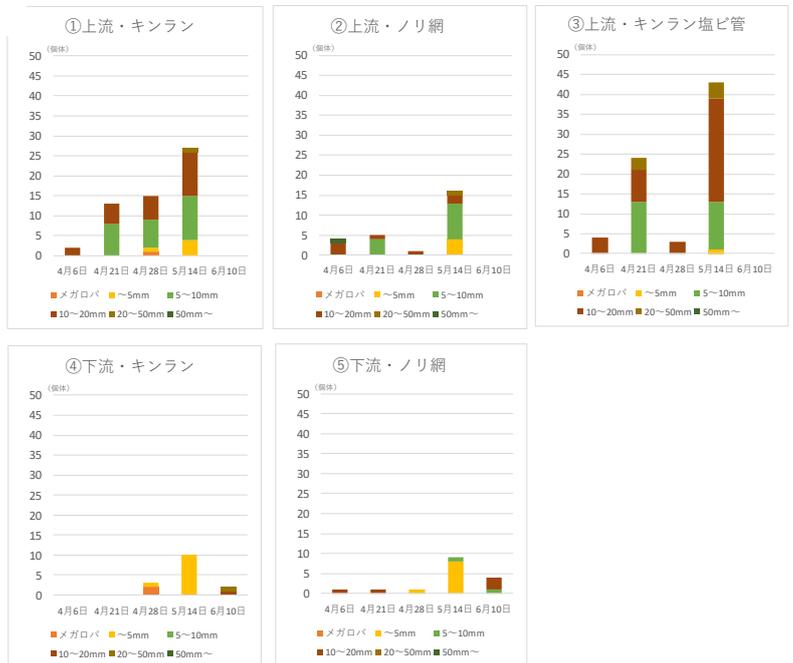


図5 採苗装置、場所別採捕個体



図6 種苗生産用親ガニ採捕状況



図7 採捕された抱卵モクズガニ